

学術情報リテラシー教育の理論と動向

平成19年度

学術情報リテラシー教育担当者研修

2007(平成19)年10月10日・11月7日

野末 俊比古(青山学院大学 / NII)



1. はじめに

- 研修の目的・構成
- 講義の目的・構成



2. メディアの多様化・高度化 と情報の利用(者)



メディアをめぐる変化 (インターネットの意味するもの)

- 情報通信技術の高度化(デジタル化・ネットワーク化)
- 情報源(ソース)と情報流通経路(チャンネル)の多様化



「情報」利用者の変化と図書館

- 情報探索・利用行動(方法)の多様化・高度化
- 図書館の位置づけの変化
- 図書館の(新たな)役割・対応



3. 情報リテラシー(教育) の研究・実践・政策の動向



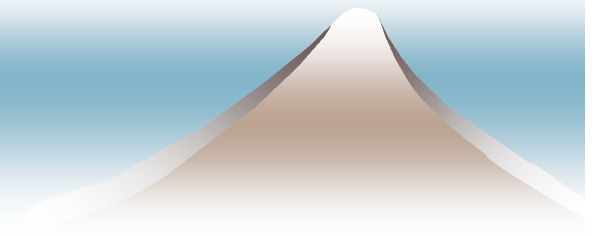
情報リテラシー(概念)の変遷

- 70年代: ビジネス能力
- 80年代: 日常生活全般
- 90年代: 「教育」に焦点
- 00年代: デジタルデバイドの解消



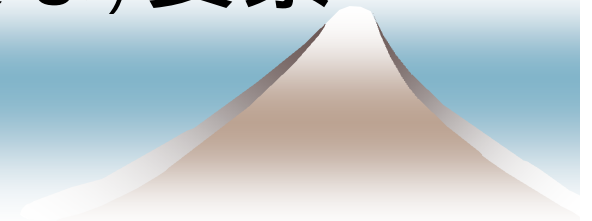
(参考)これは「情報リテラシー」?

- Excelでデータを入力、グラフを作成
- HTMLでホームページを作成
- Yahoo! でAND検索やOR検索
- NDCで図書を探す
- 著作権法第32条を守る
- 出会い系サイトを使わない



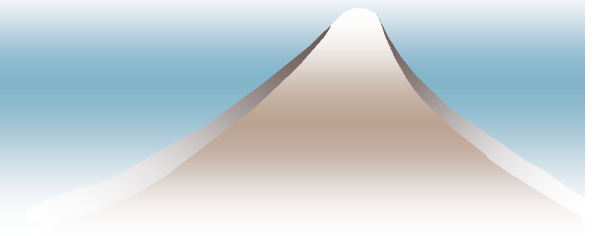
情報リテラシーの今日的な理解

- 情報を主体的に使いこなす能力
- 中身は分野・文脈に依存
- 一種のスローガンとして機能
- スキル(技能)の側面が強調
- 類縁概念との区別は曖昧
- 「図書館リテラシー」も(重要な)要素



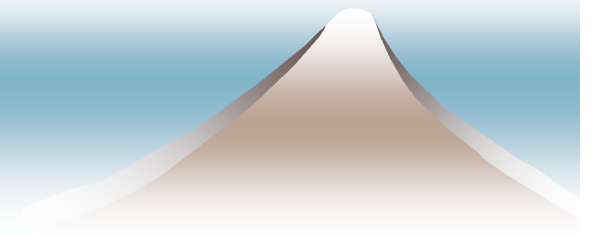
最近の研究動向(例)

- レビュー研究(国内)の登場
- 大規模な実態調査の実施・公開
- 実践に基づく報告・考察
- 理論的・歴史的な分析・検討



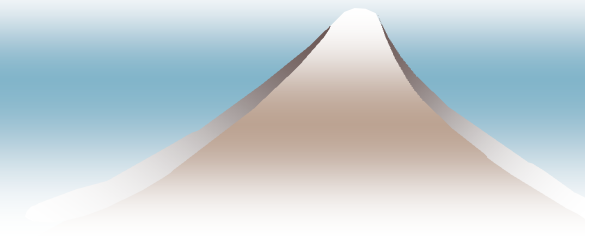
最近の実践動向(例)

- 導入教育(初年次教育)
- 出張(出前)講座
- 教材・ツール作成: テキスト、パスファインダ、ウェブ、...



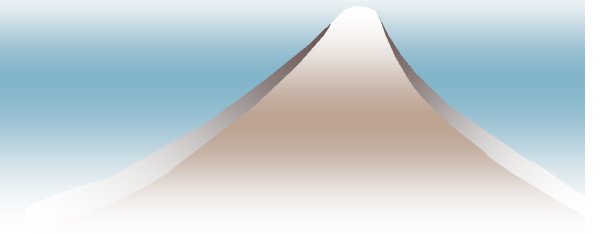
最近の政策動向(例)

- IT基本法(2001)
- 「大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について(建議)」(1996)
- 「学術情報基盤の今後の在り方について(報告)」(2006)



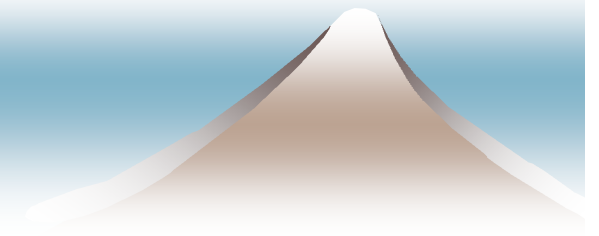
(参考) 空欄に入る言葉は？

- 2. 大学図書館を取り巻く課題
2.5 図書館サービスの問題点
多くの大学で行われている〔 〕は、
教養教育及び各専門分野における教
育との〔 〕が不十分であり、効果が
〔 〕である。



(参考)「学術情報基盤の 今後の在り方について(報告)」

- 多くの大学で行われている**情報リテラシー教育**は、教養教育及び各専門分野における教育との**連携**が不十分であり、効果が**限定的**である。
- (イ) **情報リテラシー教育の位置付けが不明確**

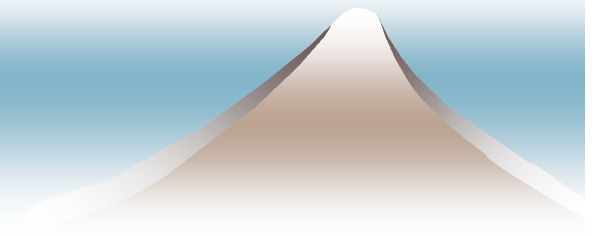


4 . 高校までの「情報教育」の現状 (教科「情報」を中心に)



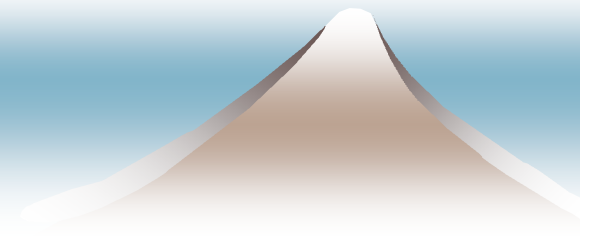
(参考)これは「情報リテラシー」?

- Excelでデータを入力、グラフを作成
- HTMLでホームページを作成
- Yahoo! でAND検索やOR検索
- NDCで図書を探す
- 著作権法第32条を守る
- 出会い系サイトを使わない

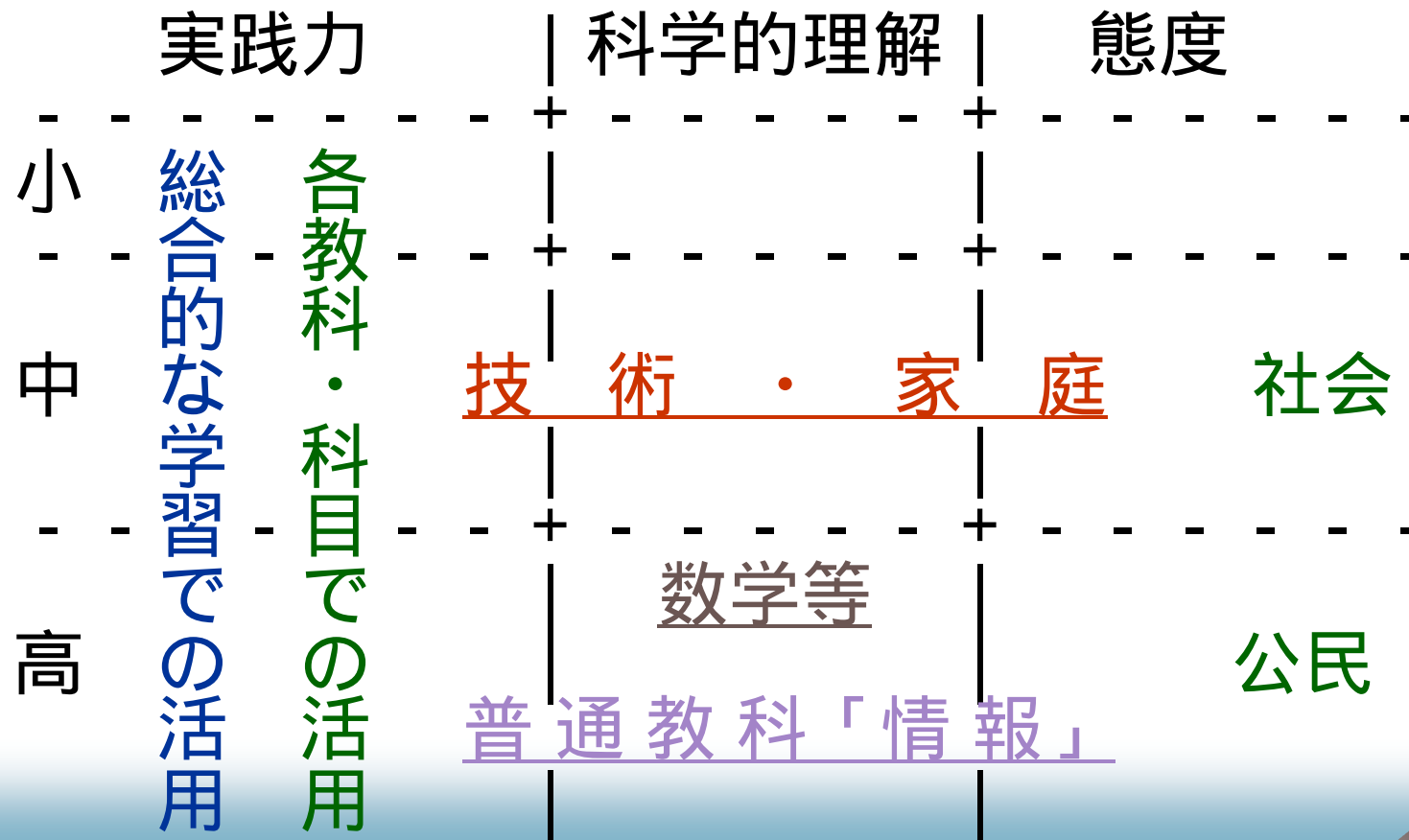


学校教育における情報教育

- 情報活用能力の育成：「生きる力（課題解決能力）」として
- 情報活用能力の要素（焦点）
 - 情報活用の実践力
 - 情報の科学的な理解
 - 情報社会に参画する態度
- 情報環境の整備：「e-Japan戦略」「IT新改革戦略」など

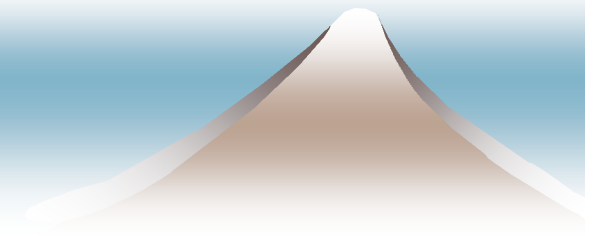


「情報教育」の体系化のイメージ



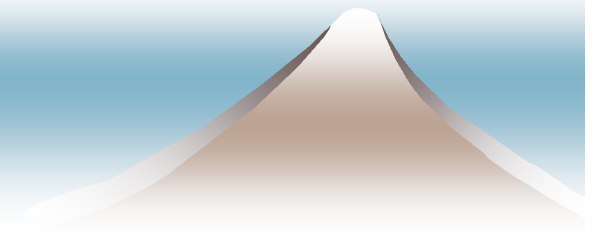
高校普通教科「情報」の概要

- 目標：情報化の進展に主体的に対応できる能力・態度の育成
- 構成：「情報A」「情報B」「情報C」から1科目以上が必修
- 特徴：「問題解決」が基礎、文理融合型、実習(技能)重視、...



(参考) 中学校「技術・家庭」 「情報とコンピュータ」

- 情報手段が果たす役割
- コンピュータの構成・機能・操作
- コンピュータの利用
- ネットワーク
- (マルチメディアの活用)
- (プログラムと設計・制御)

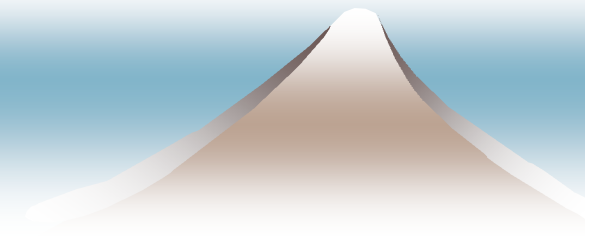


5. 大学図書館における 学術情報リテラシー教育の展開



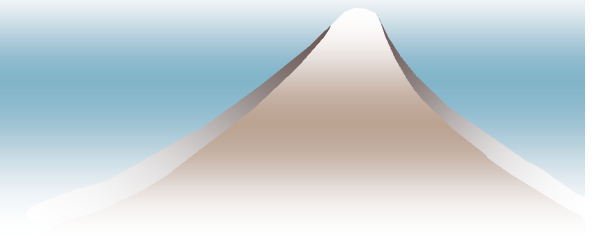
大学図書館における利用者教育

- 「図書館」「資料」「情報」
- 「探索・収集」+「整理・分析」「表現・発信」
- 「図書館(員)」+「図書館以外(授業・教員など)」



「指導サービス」の意義

- 図書館の「内部」から「外部」の文脈へ
(体系的な情報リテラシー教育)
 - 「利用者」の視点を重視
 - 図書館経営・政策上の「戦略」
- これまでのサービスの体系化・再構築



各館における指導サービスの展開

- 「逐次的」「個別的」「単発的」「計画的」「体系的」「組織的」
- これまでの活動(サービス)の再構築(体系化)



企画・実施にあたって 指導サービスの意義・内容(目標)

- 必要性(目的): 図書館の使命など、
利用者のニーズなど、...
- 有効性(評価): 効果、効率、...



(参考)「ニーズ」とは？

- need
- demand



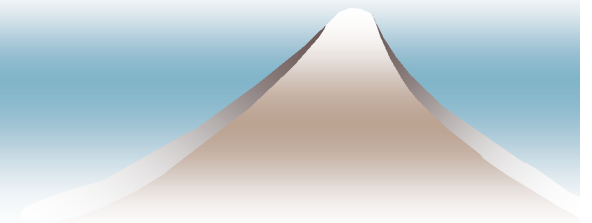
企画・実施にあたって 指導サービスの対象

- 利用者層の把握・分析
- プロフィルの作成、...



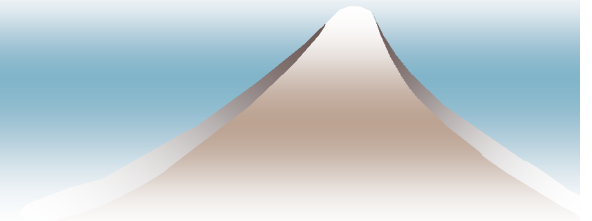
企画・実施にあたって 指導サービスの方法(手法)

- 直接(対面) / 間接(遠隔)
- 同期的 / 非同期
- 集合(集団) / 個別(個人)
- ツール(メディア)の活用



企画・実施にあたって 指導サービスの手順など

- 指導の順序(段階)
- 授業との関連
 - 関連なし(図書館独自)
 - 学科関連指導
 - 学科統合指導
 - 独立学科目



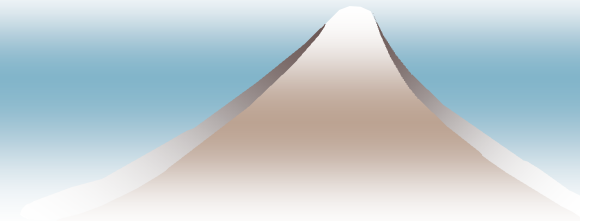
「指導サービス」の指針など

- 米国：ACRLの指針・基準など
- 日本：JLAの指針など
- 「たたき台」や「拠りどころ」として



さまざまな課題(例) プログラムのマネジメント

- 指導内容・方法などの体系化・標準化・共有化
- さまざまな利用者(ニーズ)への対応
- 環境の整備・確保
- 学内での位置づけ(教員・授業)
- 職員の「指導」技能(養成・研修)



6. おわりに

- 大学コミュニティにおける位置づけ(ライブラリアイデンティティ)
- 図書館員の役割(専門性)



ありがとうございました

ご意見、ご質問をお待ちしています
(後日の場合はメールやファクスで)

